

AGI 東アジア 12カ国・地域経済動向

東アジア 12カ国・地域の経済動向を、主要統計のグラフとアジア成長研究所（AGI）の研究員による解説とともにお知らせいたします。（2018 年第 4 四半期）

グラフの読み方

図 1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率 一国経済の基本的な経済動向を読む

- 実質 GDP 国内総生産（GDP：Gross Domestic Product）は、国内で生み出された財・サービスの付加価値の総計である。GDP には名目値と実質値があり、そのうち実質 GDP の伸び率は経済成長を測る代表的な指数である。
- GDP デフレータ 名目 GDP を実質 GDP で除した値として計算される。その伸び率は、名目 GDP の価格上昇分を表し、インフレの程度を知ることができる。GDP デフレータのプラスの伸び率が高いほどインフレ傾向にあり、マイナスの伸び率が高いほどデフレ傾向にある。

図 2：貨幣供給量と国内信用の伸び率 政府の金融政策と景気の関係を読む

- 貨幣供給量 経済全体に流通している貨幣の総量。通常、金融政策は中央銀行が貸出や公定歩合操作、債券売買や外為市場介入等を行うことによって実施される。金融政策により貨幣供給量が増加すれば、短期的には経済が拡大するが、長期的には貨幣価値が下がるので物価の上昇を招きやすい。M1 とは現金の流通額と預金（当座預金、普通預金等）を合わせたもので、M2 は M1 に定期預金、外貨預金等を合わせたものである。
- 国内信用 銀行部門の貸出等（信用）の総額。政府向け信用と民間向け信用に大別される。政府向け信用は主に銀行の国債保有残高、民間向け信用は主に企業向け貸出額にあたる。この伸び率が高ければ、国内市場に循環する資金が増加したことを示す。なお、一部の国では国内債権（Domestic Claims）を使用している。

図 3：消費者物価指数、株価指数、為替レート指数 インフレと景気動向を読む

- 消費者物価指数 消費者が購入する財・サービスの価格を加重平均したもの。インフレの程度を測る代表的な指数である。指数が上昇すればインフレ傾向にあり、下落すればデフレ傾向にある。
- 株価指数 株式市場の上場銘柄全体の値動きを表す指標である。景気（および人々の期待）の動向を知ることができる。指数の継続的な上昇は好況を、継続的な下降は不況を示唆する。
- 為替レート指数 本国通貨と米ドルとの交換レート（ドル／本国通貨）。指数の上昇は本国通貨高、下落は本国通貨安を示す。本国通貨高は輸入価格の下落により、輸入がしやすくなる一方、対外的に見て、輸出価格が上昇するので輸出が難しくなる。

図 4：輸出額と輸入額 対外経済部門の動向を読む

- 輸出額 輸出数量×輸出価格。輸出は外貨獲得の重要な手段である。
- 輸入額 輸入数量×輸入価格。資本財や中間財の輸入は国内の生産能力を増大させ、消費財の輸入は消費者の満足度を高める。



公益財団法人 **アジア成長研究所**

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 / TEL：093-583-6202 / URL：<http://www.agi.or.jp>

日本の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

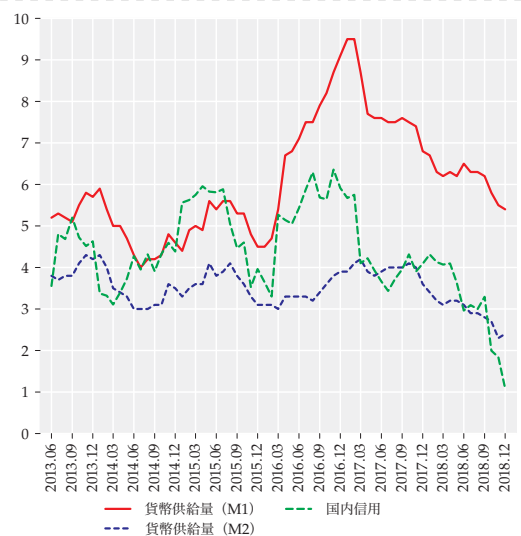


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

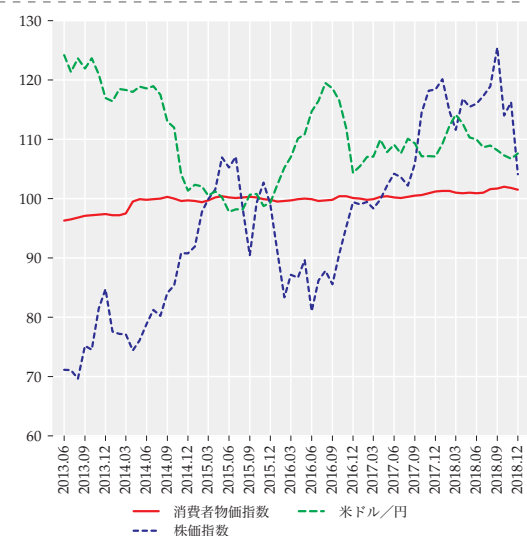
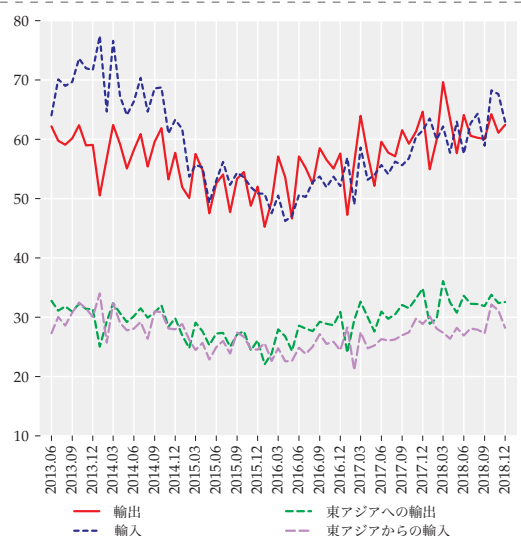


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



日本経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP の伸び率は -0.036 %とマイナス成長だった(速報値)。一方、内閣府が公表している季節調整値は 0.3 %で、ゼロ近辺の成長が続いていることを示している。貨幣供給の伸びが下落に転じ、株価指数も下落傾向、為替も 1 米ドル = 110 円を下回るようになった。一方で、米ドルベースの輸出額は引き続き回復傾向にある。米朝会談は結局不調に終わった。韓国政府の反日政策はますます強まっている。日中友好は言いづらい。ロシアとの国境問題も解決に遠い。日米、日韓、日中、日ロと各方面で、厳しい外交を求められている安倍政権であるが、厚労省の統計不正問題を皮切りに、野党の厳しく、かつ不毛な攻撃にさらされている。統計は確かに、秋の消費税率引き上げの根拠となるだろう。一方で、過去の数字に「お化粧」があったとしても、増税を見送ってきた。内外の経済環境が好転しない中、ここにきて何度も先送りしてきたツケが回ったようだ。(坂本 博)

中国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

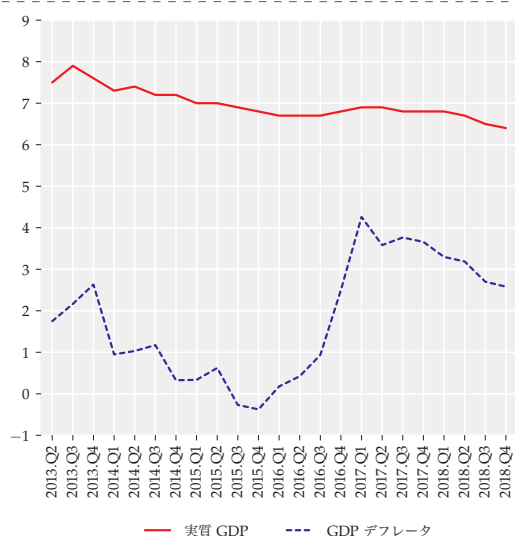


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

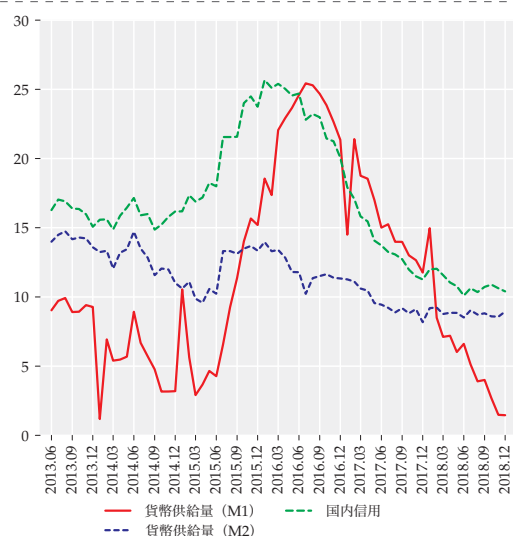


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

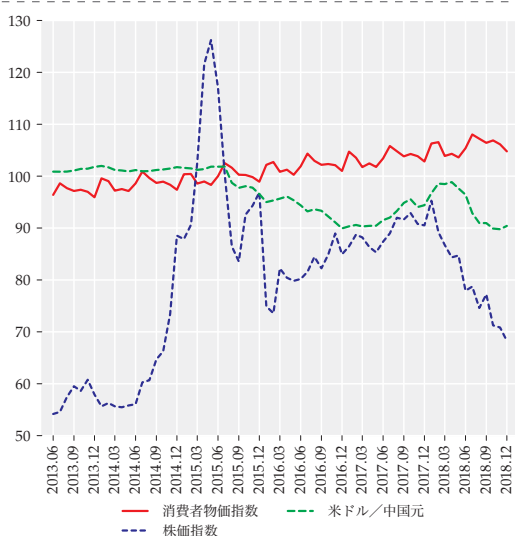
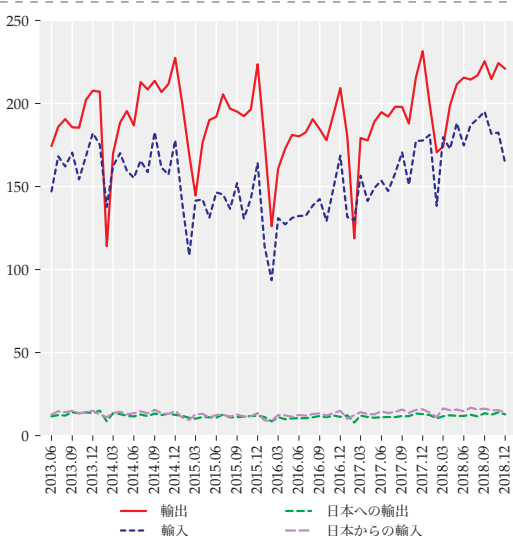


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



中国経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP 成長率は対前年同期比 6.4% となり、第1四半期の 6.8%、第2四半期の 6.7%、第3四半期の 6.5% から減速した。依然としてほとんどの国より高い水準にあるものの、1990年以降で最も低い GDP 成長率であった。米国との貿易摩擦に加え、政府による金融リスク抑制で民間企業の資金調達コストが上がり、投資が冷え込んでいる。2月下旬の米中閣僚級協議で、中国による米国製品の輸入拡大、知的財産権の保護、技術移転強要の停止などで合意したことを受け、トランプ政権は3月2日に予定していた中国製品の関税引き上げを先延ばしし、3月中にも両国首脳が会談し貿易摩擦問題の最終合意を目指すと表明した。ただし、中国の国営企業への支援などの問題で交渉が難航しており、米中摩擦の行方は依然油断できない。3月上旬に開催された全国人民代表大会で、李克強総理は、減税やインフラ投資の拡大など一連の景気刺激策を打ち出し、2019年の GDP 成長率の目標値を 6.0~6.5% にすると表明した。(孫 暁男, 戴 二彪)

香港の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

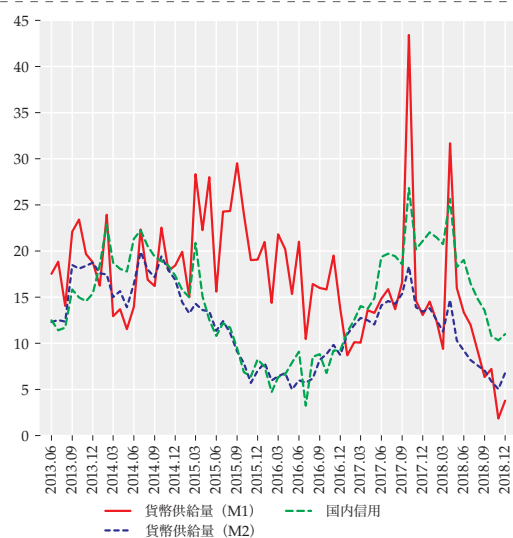


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

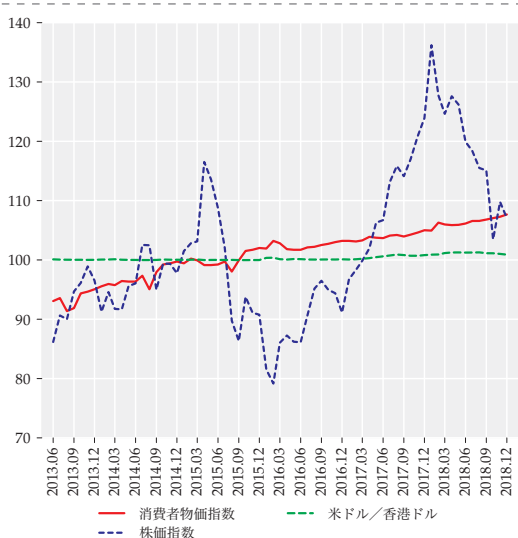
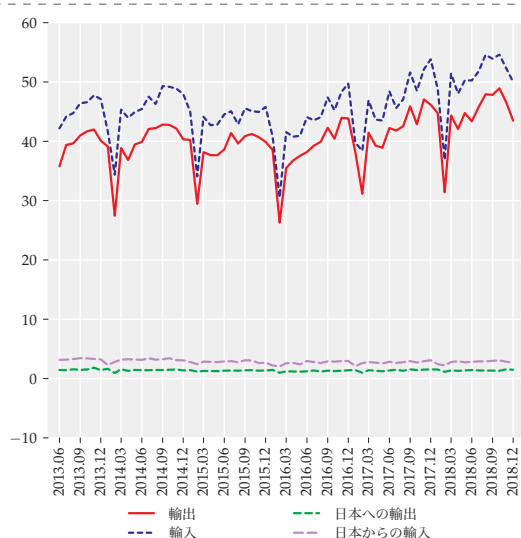


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



香港経済の動向 (2018年第4四半期)

香港政府の発表によると、2018年第4四半期の実質 GDP 成長率は対前年同期比 1.3% となり、第1四半期の 4.6%、第2四半期の 3.5%、第3四半期の 2.9% からかなり減速した。その結果、2018年通年の香港 GDP 実質成長率は 3.0% 程度にとどまり、香港政府の予測値をやや下回った。不動産価格の下落や米中貿易摩擦による余波が響くため、香港政府は、2019年通年の実質 GDP 成長率を 2~3% と予測し、経済減速の継続を想定している。一方、ワシントンに拠点を置くシンクタンクのヘリテージ財団が 1月 25日に発表した 2019年版の「経済自由度指数」によると、香港が 25年連続で最も経済自由度の高い国・地域となった。香港政府は「経済成長を促進するため、法の支配を守り、低税率で簡素な税制を維持し、政府の効率性を改善し、自由な貿易制度を堅持し、開放的な競争の場を構築していく」とコメントし、今後も香港のビジネス環境上の優位性を確保する考えを強調している。

(孫 暁男, 戴 二彪)

韓国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)

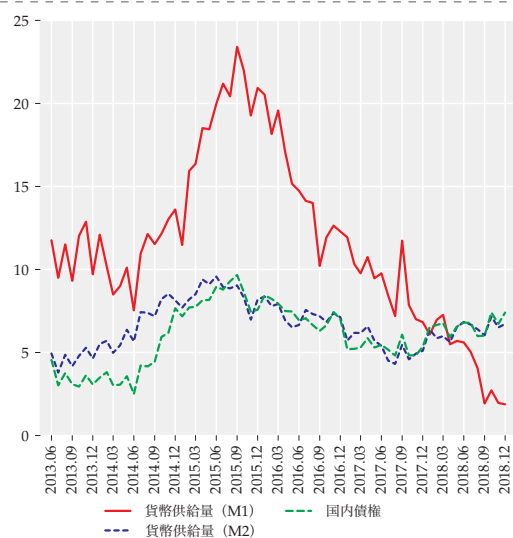


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

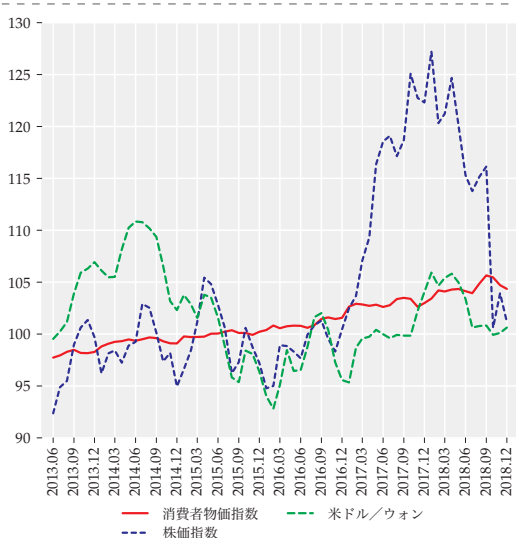
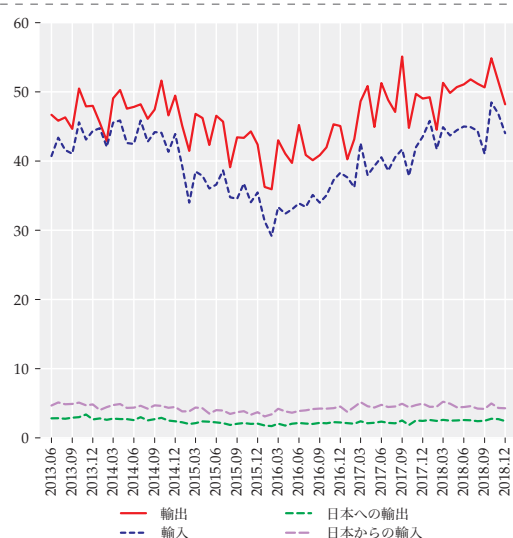


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



韓国経済の動向 (2018年第4四半期)

韓国の2018年第4四半期の実質 GDP の伸び率は予想に反し、3.10%と反転した(速報値)。しかしながら、この期間(9月末から12月末)における各経済指標は、これを裏付ける結果ではなかった。例えば、株価指数は2,343から2,041に下落、輸出額も506.5億米ドルから482.1億ドルに減少している。なお、通年では2.7%と低調だった。文在寅(ムン・ジェイン)政権が掲げる「所得主導型成長」政策は、引き続き内需を委縮させている。米中貿易摩擦の影響を受け、外需も見通しが悪い。中央銀行は2019年の経済成長率を2018年の実績と同様の2.7%としているが、達成は難しそうだ。外交面では「同盟」よりも「同胞」を鮮明にし、反日色をさらに強めていたが、米朝会談が低調に終わったため、語気が弱くなるかもしれない。日韓関係の先行きが引き続き懸念されるが、日韓双方を訪れる観光客が過去最高となっており、「政府反日、民間親日」、「昼は反日、夜は親日」といったダブルスタンダードの様相も見受けられる。(坂本 博)

台湾の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

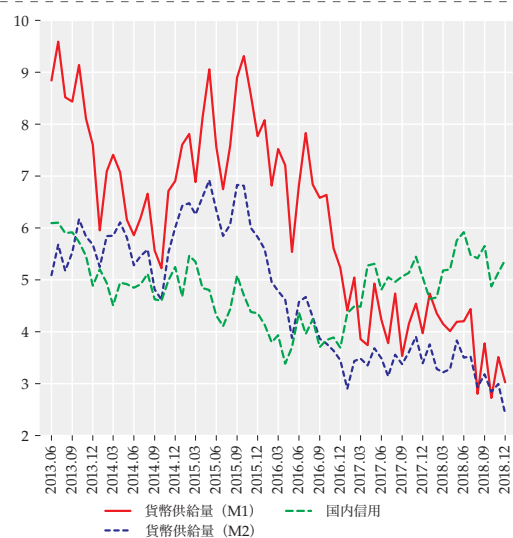


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

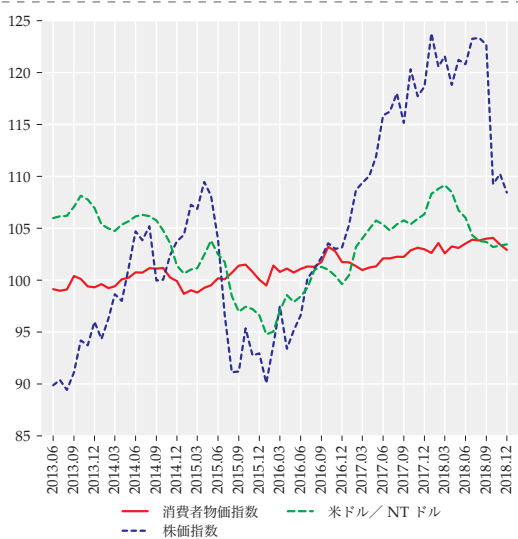
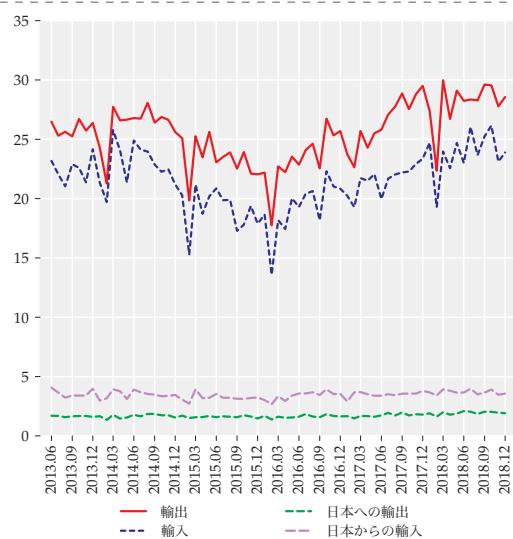


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



台湾経済の動向 (2018年第4四半期)

台湾の2018年四半期ごとの経済成長率は3.15%、3.29%、2.38%、1.78%で後半失速した。2018年通年で2.63%、1人当たりGDPは2万5,004米ドルであった(主計總處2019年2月13日付資料)。国際貿易では、2018年通年の輸出総額は過去最高で3,359億米ドル、輸入総額は2,863億米ドルで、昨年比で各々5.9%と10.4%の伸び率であった。中国・習近平政権は、2019年1月2日の「台湾同胞に告げる書」において「一国二制度」の適用と武力行使の不放棄を公言し台湾への統一圧力を強化した。台湾の民進党・蔡英文政権はこれに反発し、欧米諸国からも台湾支持が表明された(EUと欧州議会による自由民主の台湾への支持表明、米下院による台湾のWHOオブザーバー復帰への支持決議)。また台湾は、EUやカナダとの経済貿易対話、日本との経済貿易会議、インドやインドネシアとの投資協定・経済協力など、経済面の国際連携強化でも努力を続けている。

(岸本千佳司)

インドネシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

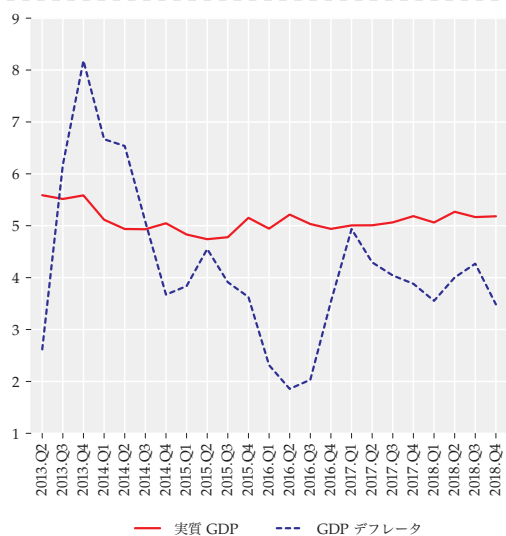


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)

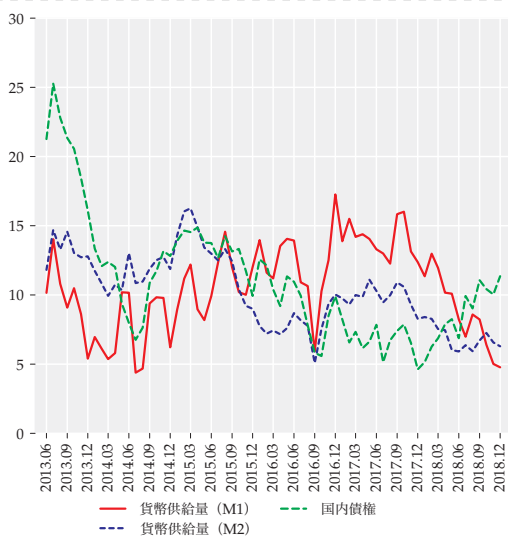


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

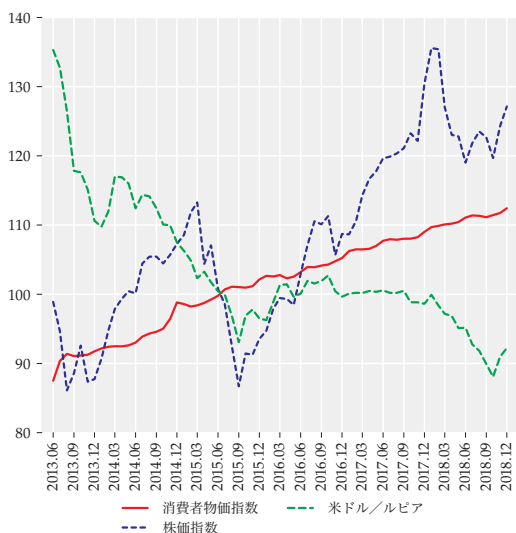
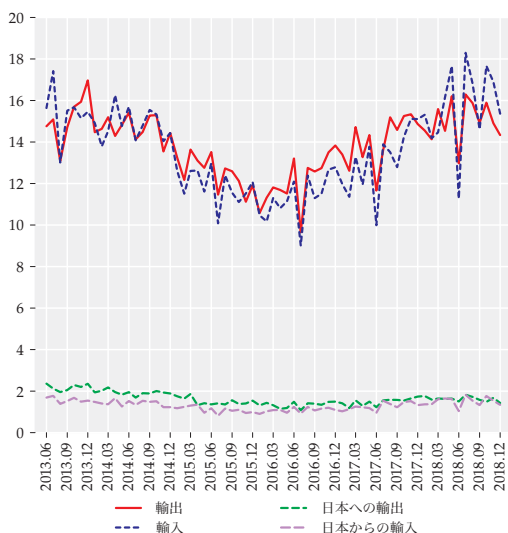


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



インドネシア経済の動向 (2018年第4四半期)

インドネシアの2018年第4四半期における実質 GDP の伸び率は5.18%で、通年では5.17%であった。依然として5%以上の経済成長を維持しているが、政府の目標値とされている5.4%には及ばなかった。堅調な国内債権の伸びに対し、M1の伸びが急落している。輸出入が2015年末を境に回復傾向にあるが、2018年は貿易赤字の月が目立つ。米国の金利上昇により、ルピアの下落が続いていたが、12月末には1米ドル=約14,500ルピアと、10月末の約15,200ルピアから幾分回復している。また、年間通じて1.75%ポイント上昇した政策金利は、6.00%で据え置かれている。2018年はアジア競技大会が成功したものの、各地で大きな自然災害に見舞われた。2019年は大統領選や総選挙が控えており、政府の「バラマキ」が予想される。外需は、引き続き米中間の貿易摩擦の影響を受けるかもしれない。これらを踏まえたうえで、内需による成長が見込まれており、5.0~5.4%の範囲で成長するとの見通しである。(坂本 博)

マレーシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

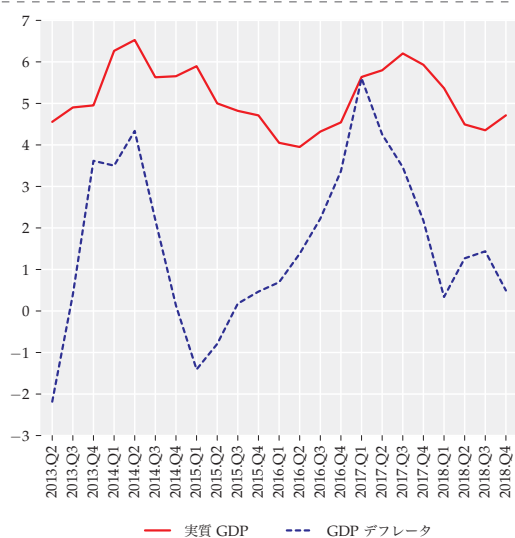


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)

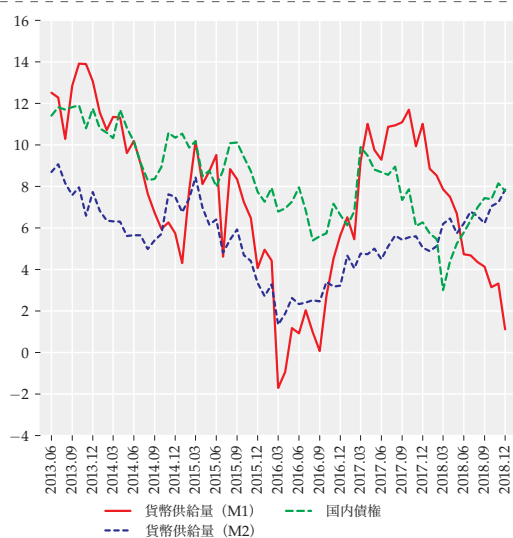
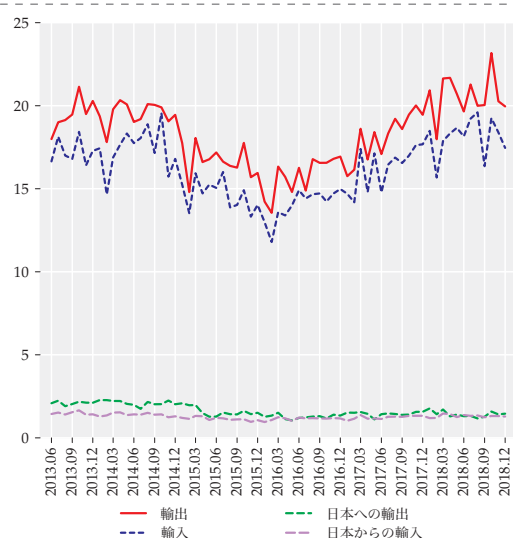


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)



図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



マレーシア経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP の伸び率は、前年同期比 4.7 % 増と前期 (同 4.4 % 増) から小幅ながら上昇したことで、5 期連続の減速は回避された。需要項目別にみると、良好な雇用環境を背景に、民間消費が同 8.5 % 増と前期 (同 9.0 % 増) と同様、経済成長の主な牽引役となった。投資では、新政権の公約にもとづきインフラ案件の見直しが進められていることから、公共投資は同 5.0 % 減と、5 期連続の減速となった。他方、民間投資は、好調な民間消費や昨年 10 月に新たな産業政策「インダストリー・フォワード (4WRD)」が打ち出されたことなどをを受け、4.0 % 増と前期 (同 6.9 % 増) から低下したものの、伸びを維持した。加えて、輸出が同 1.3 % 増と前期 (同 0.8 % 減) からプラスに転じたことで、純輸出の成長への寄与度もプラスに転じた。なお、2018 年通年の成長率は前年比 4.7 % 増と 2017 年 (同 5.9 % 増) から減速し、これは政府の予測 (5.0 ~ 5.5 % 増) を下回る結果となった。

(新見陽子)

フィリピンの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

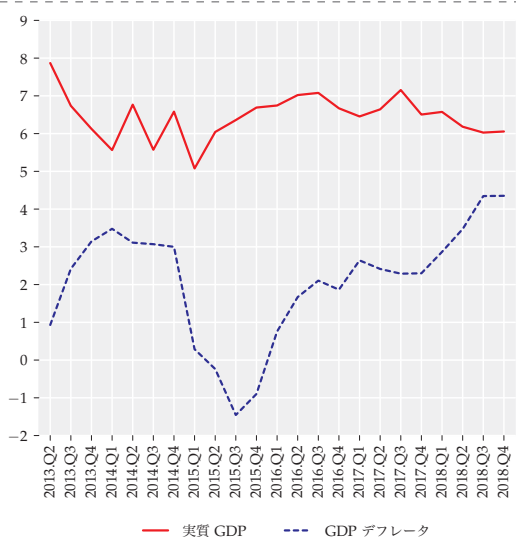


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

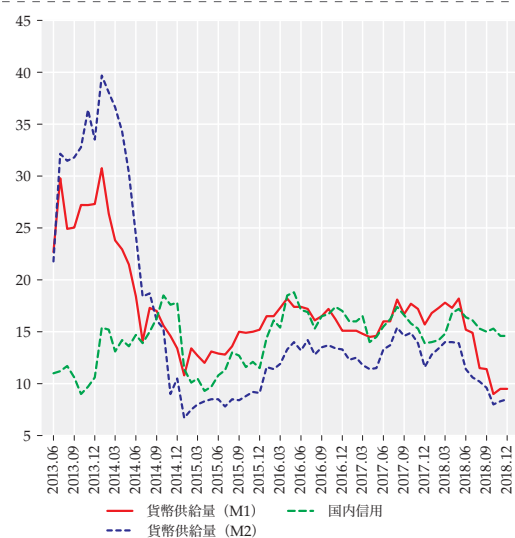


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

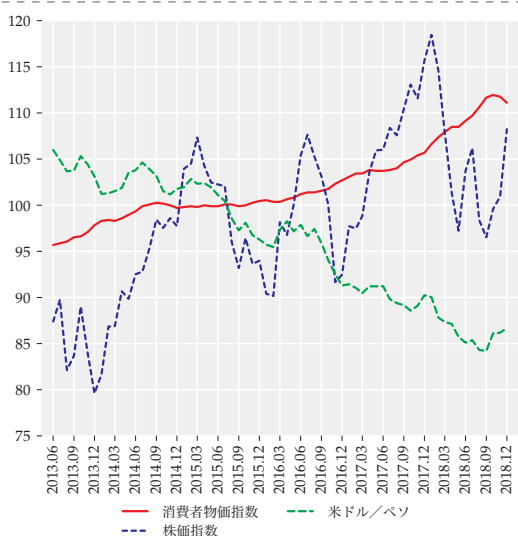
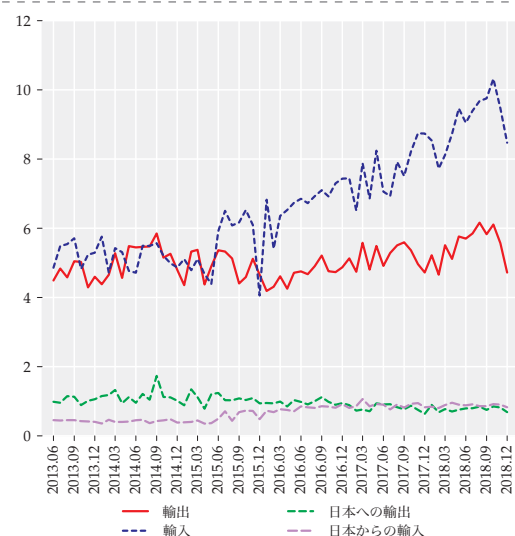


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



フィリピン経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP の伸び率は、前年同期比 6.1 % と前期 (同 6.0 %) を僅かながら上回り、2 期ぶりに上昇に転じた。一方、2018 年通年の伸び率は、前年比 6.2 % と前年 (同 6.7 %) を下回り、政府が成長率目標を昨年 10 月に 7.0~8.0 % から 6.5~6.9 % に引き下げたにもかかわらず、この目標を達成できない結果となった。第 4 四半期の実質 GDP の伸び率を需要項目別にみると、政府消費の伸びは前年同期比 11.9 % が前期の 14.3 % から、総固定資本形成は同 9.8 % が前期の 17.4 % からそれぞれ減速したものの、双方とも引き続き好調であった。純輸出の成長への寄与度は依然としてマイナスだったものの、輸入の鈍化にともなってマイナス幅が縮小した。民間消費支出の伸び率は、物価上昇率の低下に加え、海外出稼ぎ労働者からの送金流入が鈍化したものの、ペソ安の進展によりペソ建ての流入額が押し上げられたことで、前期の同 5.2 % から 5.4 % に僅かながら上昇した。
(チャールズ・ユウジ・ホリオカ)

シンガポールの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

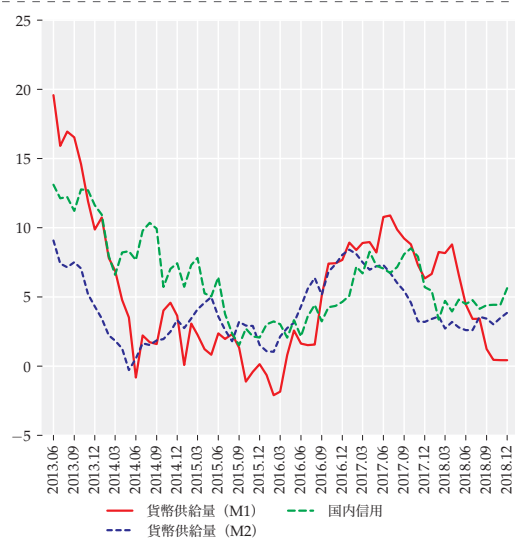


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

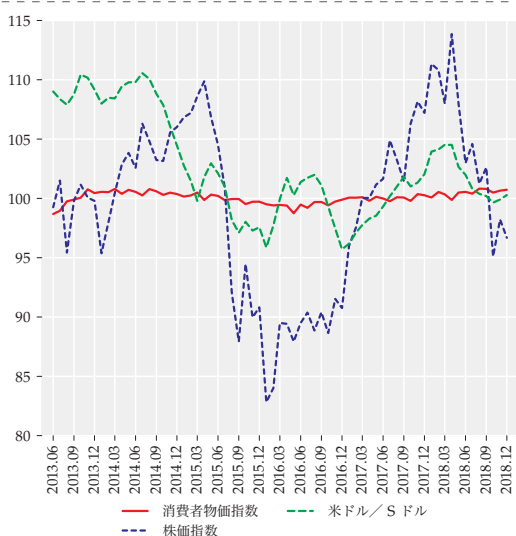
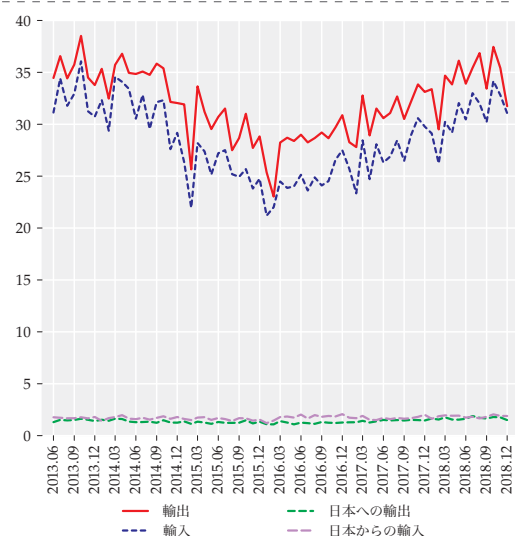


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



シンガポール経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP の伸び率は前年同期比 1.86 %であった。3 期続けての減速によって 3 年ぶりの低水準を記録した。2018 年通年での実質 GDP の伸び率は 3.23 %となり、前年の 3.93 %から軟化した。産業別にみると、経済を支える製造業は前期 (前年同期比 3.5 %) から加速し 5.1 %の堅調な成長をみせ、建設業は -1.0 %のマイナス成長だったが、前期 (-2.3 %) よりも回復している。サービス業は 1.8 %成長したものの、3 四半期続けての減速となった。部門別に見ると、情報・通信業 (6.1 %), 金融・保険業 (4.1 %) が成長を牽引しているが、卸売・小売業 (-0.6 %), 運輸・倉庫業 (0.5 %) などが低調であった。通商産業省 (MTI) は、2019 年の経済について、米国とその貿易相手国との摩擦や予想を上回るペースでの中国経済の減速、Brexit による英国と EU の貿易や経済への影響など不確実性と下振れリスクが高まっているとし、実質 GDP の伸び率予測値を 1.5~3.5 %に据え置いている。(田村一軌)

タイの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

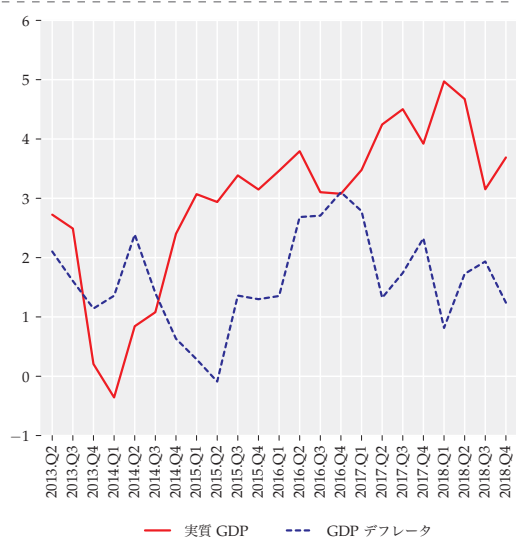


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)

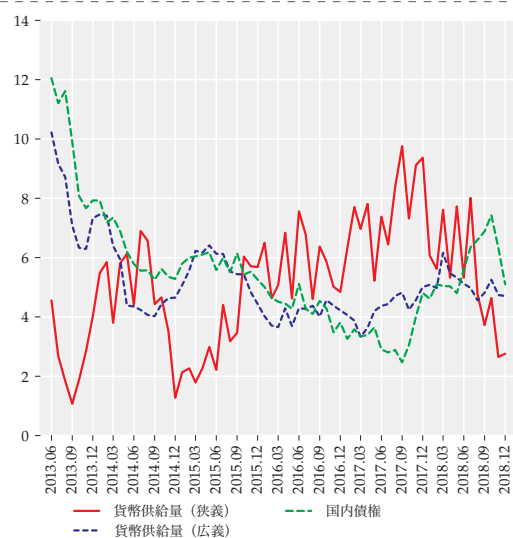


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

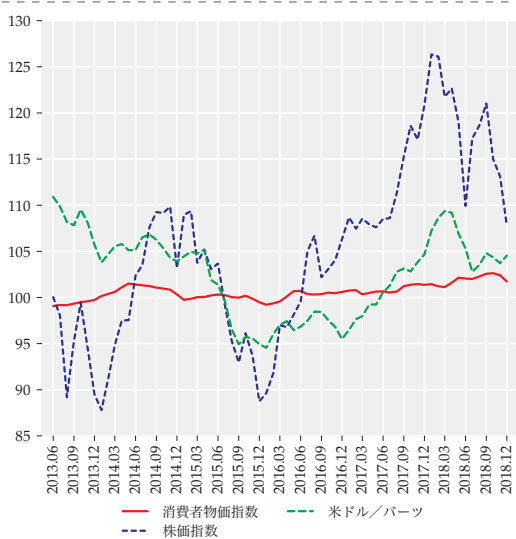
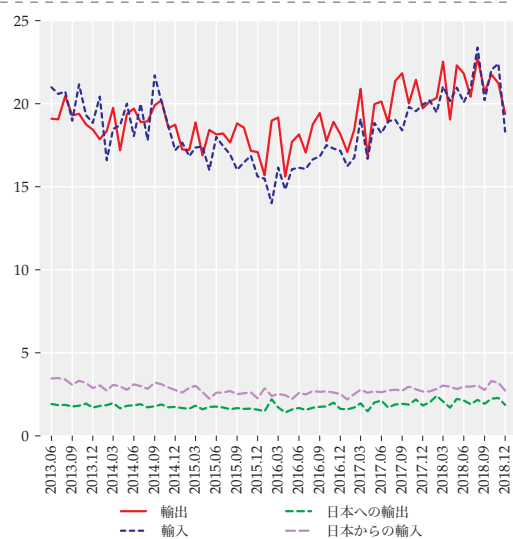


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



タイ経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP の伸び率は前年同期比で 3.69 % となり、前期 (同 3.15 %) からやや加速した。2018 年通年の実質 GDP の伸び率は前年比で 4.13 % となり、従前の予測 (4.2 %) には届かなかったものの、この 6 年で最も高い成長を記録した。支出側からみると、成長は個人消費と個人投資の加速に支えられたものの、輸出が減速している。輸出額は第 1 および第 2 四半期には前年同期比で 10 % を超える増加を記録したが、第 3 および第 4 四半期の増加率はそれぞれ 2.99 %, 1.96 % と低調であった。生産側からみると、製造、卸売・小売、宿泊・飲食、交通・通信の各部門が加速したものの、建設および農業部門が減速した。経済を下支えする観光業は、10 月には外国人観光客数が前年同月比で 0.51 % の減少と落ち込んだが、12 月には同 7.68 % の増加にまで回復し、2018 年の外国人観光客数は前年の 3,560 万人を上回る 3,827 万人となった。経済社会開発庁 (NESDB) は、2019 年の実質 GDP の伸び率を 3.5~4.5 % と予測している。(田村一軌)

ベトナムの経済指標

図1：実質 GDP の伸び率

(前年同期比, %)

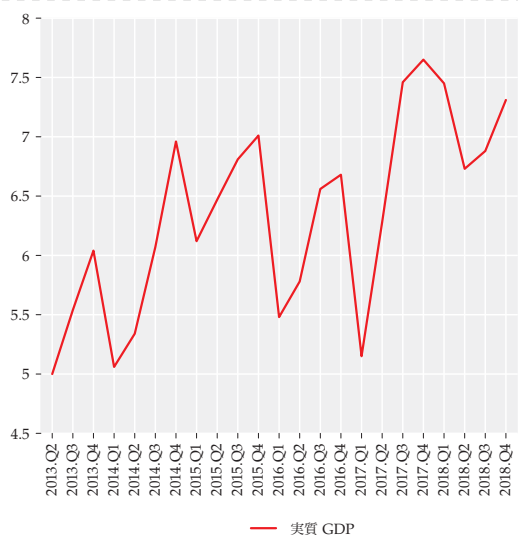


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率

(前年同月比, %)

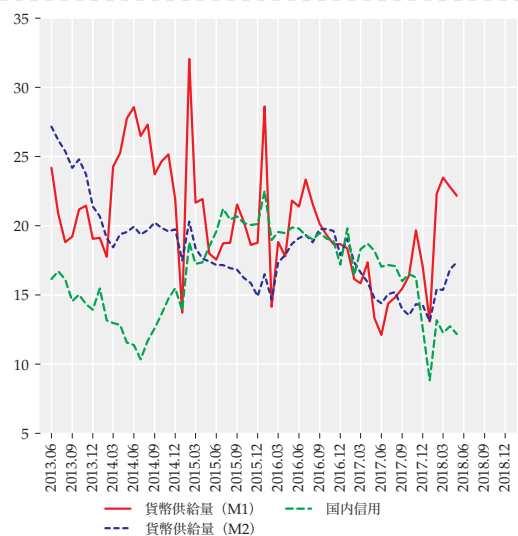


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数

(2015年=100)

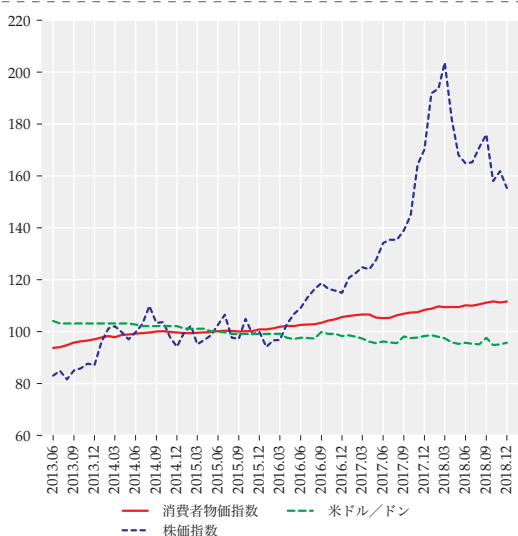


図4：輸出額と輸入額

(10億米ドル)



ベトナム経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP 成長率は7.31%で、直近の2四半期より高いものであった。しかし、ベトナムの株価指数 (VN-index) は900ポイントまで下落し、2018年における最安値を更新した。世界に対するベトナムの貿易収支は11月までの黒字から12月には赤字に転じたものの、第4四半期全体では依然として黒字を維持することができた。しかし、この黒字額は、第3四半期に達成した黒字額の15%に過ぎないものであった。したがって、第4四半期の実質 GDP 成長率が2018年の他の四半期と比較して高かったのは、消費の実質成長率が前年同期比7.51%であったためと考えられる。加えて、環太平洋パートナーシップに関する包括的かつ先進的な協定 (CPTPP) が2018年11月12日にベトナム議会により批准され、2019年1月14日に正式に発効されたことで、今後CPTPPがベトナムの主要輸出品である衣服や履物、海産物などの輸出拡大を促進することが期待される。

(ティエン・マン・ヴ)

インドの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

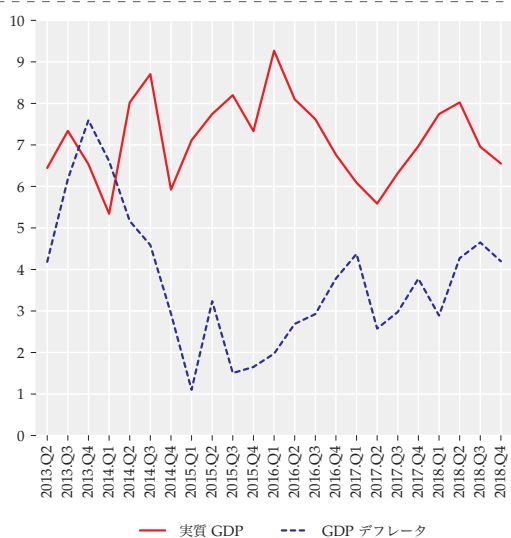


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

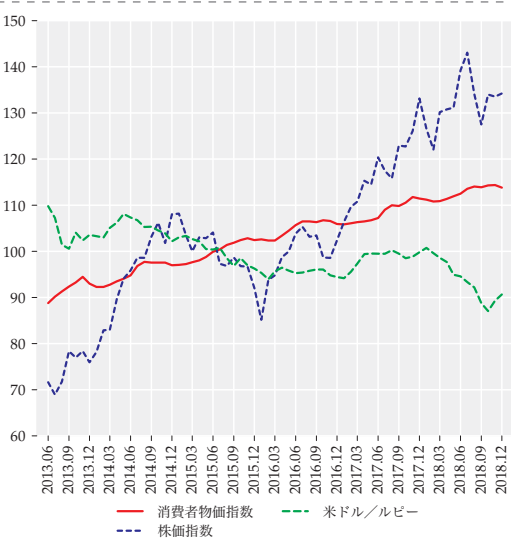
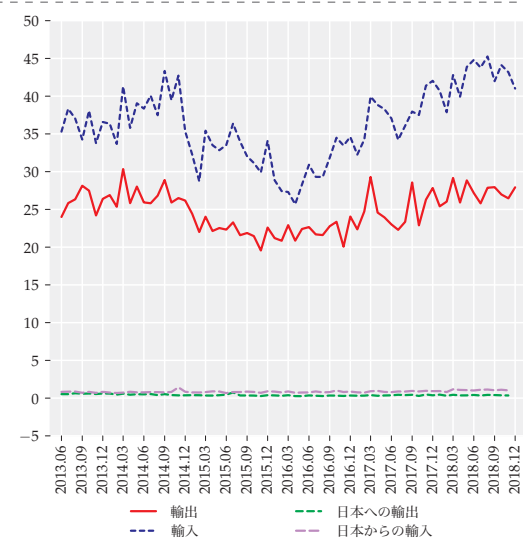


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



インド経済の動向 (2018年第4四半期)

2018年第4四半期の実質 GDP の伸び率は前年同期比で 6.55 % となり、前期 (同 6.96 %) からさらに減速した。生産からみると、前期から引き続き建設業 (同 9.6 % 増) が成長に寄与しているほか、金融・不動産・専門サービス (同 7.3 %) や貿易・宿泊・交通・通信 (同 6.9 %) も堅調な成長を見せた。消費から見ると、GDP の 6 割近くを占める民間最終消費支出が前年同期比で 8.37 % 増と、前期 (同 9.80 %) から減速した。2019年1月の消費者物価指数の伸び率 (前年同月比) は 2.05 % と 1年7ヵ月振りの低い値を記録した。中央銀行は当面は穏やかなインフレが続くとしており、政策金利を 0.25 ポイント下げて 6.25 % とし、金融政策のスタンスを「調整された引き締め (calibrated tightening)」から「中立 (neutral)」に変更した。第4四半期の輸出額は前年同期で 5.66 % の増加、輸入額は 6.10 % の増加と、いずれも前期から大きく減速している。政府は 2018/19 年度の GDP 成長率を、前年度の 7.2 % を下回る 7.0 % と予測している。(田村一軌)

図に関するデータの出所および注

日本：

- 図1 内閣府経済社会総合研究所 (<http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)
- 図2 日本銀行 (<http://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図3 消費者物価指数：総務省統計局 (<http://www.stat.go.jp/data/cpi/sokuhou/tsuki/index-z.htm>)；株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/quote/%5EN225/history>)；為替レート指数：日本銀行 (<http://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図4 財務省 (<http://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/time.htm>)；東アジアは中国、香港、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの合計

中国：

- 図1 China, National Bureau of Statistics, *National Data (Quarterly)* (<http://data.stats.gov.cn/english/easyquery.htm?cn=B01>)
- 図2、図3 China, Statistics and Analysis Department, The People's Bank of China (<http://www.pbc.gov.cn/diaochatongjisi/116219/index.html>)
- 図3 消費者物価指数：China, National Bureau of Statistics, *National Data (Monthly)* (<http://data.stats.gov.cn/english/easyquery.htm?cn=A01>)；
- 図4 China, General Administration of Customs, *Statistics / Monthly Bulletin* (<http://english.customs.gov.cn/statics/report/monthly.html>)

香港：

- 図1、図4 Hong Kong, Census and Statistics Department, *Hong Kong Statistics* (<http://www.censtatd.gov.hk/hkstat/>)
- 図2、図3 Hong Kong, Monetary Authority, *Monthly Statistical Bulletin* (<http://www.hkma.gov.hk/eng/market-data-and-statistics/monthly-statistical-bulletin>)

韓国：

- 図1、図2、図3 Korea, Bank of Korea (<http://ecos.bok.or.kr>)
- 図3 株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/quote/%5EKS11/history>)
- 図4 Korea, Korea Customs Service (https://unipass.customs.go.kr:38030/ets/index_eng.do)

台湾：

- 図1 Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<http://statdb.dgbas.gov.tw/pxweb/dialog/statfile1L.asp>)
- 図2 Republic of China, Central Bank of China (<http://www.cbc.gov.tw/content.asp?mp=2&CuItem=2069>)
- 図3 消費者物価指数：Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<http://eng.stat.gov.tw/ct.asp?xItem=12092&ctNode=1558&mp=5>)；株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/quote/%5EN225/history>)；為替レート指数：Republic of China, Central Bank of China (<http://www.cbc.gov.tw/ct.asp?xItem=1880&ctNode=511&mp=2>)
- 図4 Republic of China, Customs Administration, Ministry of Finance, *Trade Statistics Search* (<https://portal.sw.nat.gov.tw/APGA/GA03E>)

インドネシア：

- 図1、図4 Indonesia, Statistics Indonesia (<http://www.bps.go.id>)
- 図2 Indonesia, Bank Indonesia, *Indonesian Financial Statistics* (<http://www.bi.go.id/en/statistik/seki/terkini/moneter/Contents/Default.aspx>)
- 図3 株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/quote/%5EJKSE/history>)；消費者物価指数：Indonesia, Statistics Indonesia (<http://www.bps.go.id/linkTabelStatis/view/id/907>)；為替レート：Indonesia, Bank Indonesia (<http://www.bi.go.id/en/moneter/informasi-kurs/referensi-jisdor/Default.aspx>)

マレーシア：

- 図1、図2、図3、図4 Bank Negara Malaysia, *Monthly Highlights and Statistics, various issues* (http://www.bnm.gov.my/index.php?ch=en_publication&en&pub=msbarc)
- 図2 国内債権：International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<http://data.imf.org/ifs>)
- 図3 株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/quote/%5EKLSE>)
- 図4 日本との輸出入：Malaysia, Department of Statistics, *Malaysia External Trade Statistics* (<https://metsonline.stats.gov.my/>)

フィリピン：

- 図1 Philippines, Philippine Statistics Authority, *National Accounts* (<http://psa.gov.ph/nap-press-release/data-series>)
- 図2、図3 Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Economic and Financial Statistics* (http://www.bsp.gov.ph/statistics/statistics_key.asp)
- 図3 株価指数：Yahoo Finance (<https://finance.yahoo.com/quote/PSEI.PS/history>)
- 図4 Philippines, Philippine Statistics Authority, *Foreign Trade* (<http://www.psa.gov.ph/business/foreign-trade>)

シンガポール：

- 図1 Singapore, Department of Statistics (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/national-accounts/latest-data>)
- 図2 Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<http://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Money-and-Banking.aspx>)
- 図3 消費者物価指数：Singapore, Department of Statistic, (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/prices-and-price-indices/latest-data>)；株価指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<http://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Financial-Markets.aspx>)；為替レート指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Other Financial Statistics* (<http://www.mas.gov.sg/Statistics/Other-Statistics.aspx>)
- 図4 Singapore, Department of Statistic (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/trade-and-investment/merchandise-trade/latest-data>)

タイ：

- 図1 Thailand, National Economic and Social Development Board (http://www.nesdb.go.th/nesdb_en/more_news.php?cid=155)
- 図2 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatMFSSurvey.aspx>)
- 図3 消費者物価指数：Thailand, Ministry of Commerce, Bureau of Trade and Economic Indices (http://www.price.moc.go.th/en/home_en)；株価指数：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets/CapitalMarket/Pages/StatCapitalMarket.aspx>)；為替レート指数：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets/ExchangeRate/Pages/StatExchangeRate.aspx>)
- 図4 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatInternationalTrade.aspx>)

ベトナム：

- 図1 Vietnam, General Statistics Office, *Monthly Statistical Information* (http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=622)
- 図2 International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<http://data.imf.org/ifs>)
- 図3 2017年3月までの消費者物価指数および為替レート：International Monetary Fund, *International Financial Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降の消費者物価指数と為替レート：Vietnam, General Statistics Office, *Monthly Statistical Information* (http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=622)より推計；2014年12月までの株価指数：Hochiminh Stock Exchange (<http://www.hsx.vn>)；それ以降の株価指数：Fusion Media, *Investing.com* (<http://www.investing.com/indices/vn-historical-data>)
- 図4 2017年3月まで：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降：Vietnam, General Statistics Office, *Thematic Data, Import-export turnover* (http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=626)

インド：

- 図1、図2、図3、図4 Reserve Bank of India, Database on India's Economy, Statistics tab (<https://dbie.rbi.org.in/DBIE/dbie.rbi?site=statistics>)
- 図1 2018年第2四半期以降：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<http://www.mospi.gov.in>)
- 図3 株価指数：Yahoo (<http://finance.yahoo.com/quote/%5EBSESN/history>)
- 図4 日本との輸出入：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics* (<http://data.imf.org/dot>)